

笹川科学研究助成を受けて

青山学院大学理工学部 物理・数理学科 助教 鈴木岳人

私は平成25年度の笹川科学研究助成を頂きましたが、これは私にとっては初めての競争的資金の獲得でありました。感謝申し上げます。第三者から研究の評価を得られたということでこれが重要なことだったのは言うまでもありませんが、申請書の内容について思い返しますと、その後の研究生活において重要な分岐点でもあったのかもしれないと思います。その書類の中で私は、自分の研究は地震学に分類されるものの、その成果は物理学的にも意義あるものであると書きました。地震学には地球上で起こる「地震」という現象を説明し、できるだけ防災・減災に近付けるものだ、という認識があり、またそれは当然かもしれません。しかし例えばシュレーディンガー方程式のような物理的根拠のある支配方程式を厳密な初期条件・境界条件の下で解くことが本当の意味での「将来の予測」であり、地震学においてはそれがない以上、将来のことに対して何かを明言することには疑問が残ります。それならば、地震という自然が引き起こした現象からまだ見ぬ物理現象を探求すべきであり、そこに特化した方が良いのでは、とも思っておりました。こういった主張はなかなか評価される、というところまでは至っておりませんでした。本助成が始めて注目して下さったと言えると思います。

本年度私が受賞致しました若手科学者賞の受賞題目も「動的地震破壊過程の包括的理解のための数理物理的研究」というもので、地震学とはいえ、そこからいかに物理を引き出すかが重要だ、という気持ちがこめられています。実際に、ある論文では、地球科学の雑誌にもかかわらず、ある種の化学反応についての振る舞いに関する議論を掲載致しました。地球を対象にする研究ではあっても、そこから数学的・物理的普遍性を見抜ければ応用性の高い成果になるのだということを示せたのではないかと思います。

そしてまた、現在私は物理学専攻に所属しております。その応募書類でも、地震学出身ではあるが物理学の世界でもやっていける自信がある、と書きました。そのような主張に自信を持てたのも、ここで評価して頂いた経験があるからだと思います。こうしてみますと、笹川科学研究助成を受けましてから一貫して「地震学と物理学の重要な関係」を主張してきたことが実を結んでいるように思います。

最後に、若い人たちに伝えることがあるとするならば、自分なりに何か信念を持つことが大事である、ということではないかと思います。もちろん何事にも頑固になれというわけではありません。色々なアイデアを柔軟に取り入れることは研究において大変重要です。しかしその芯の部分には揺るぎない柱が必要であることもまた事実です。私の場合は「地震から物理を取り出す」という信念を持っておりました。分野を超えて考えることは個人にとっても、自然科学全体にとっても大きな意味を持つと思います。